

平成 27 年度

病害虫発生予察情報 第 12 号

特殊報第 1 号

北海道病害虫防除所 平成 27 年 8 月 19 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

ジャガイモシロシストセンチュウの確認について

オホーツク総合振興局管内網走市のばれいしょ生産ほ場において、これまで国内では未確認だったジャガイモシロシストセンチュウ (*Globodera pallida*) が確認された。本種は南アメリカ原産で、北米、ヨーロッパ、インド、ニュージーランドなど世界各地に分布し、ばれいしょをはじめトマト、なすなどのナス科作物に寄生する。本種は形態、被害の両面においてジャガイモシロシストセンチュウ (*G. rostochiensis*) に類似している。

今回、北海道内で栽培されているジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性のばれいしょ品種への寄生が確認されたことから、ジャガイモシロシストセンチュウに対する有力な対抗手段であるジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性品種の栽培が、本種に対しては効果を発揮できない可能性がある。そのため、道内、国内における本種の発生拡大に注意を要する。

1. 発生の確認経過

平成 27 年 7 月下旬、網走市の一部ほ場において、ばれいしょの生育不良が認められたため調査したところ、ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性品種の「コナユキ」、「サクラフブキ」の根にシストの高密度な着生が確認された。このため、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター及び農林水産省植物防疫所において、着生しているシストの同定を実施したところ、形態観察及び遺伝子診断の結果、日本ではこれまで存在が確認されていなかったジャガイモシロシストセンチュウであることが確認された。

2. 形態と類似種との識別

(1) 雌成虫・シスト：ほぼ球形で頸部が小さく突出する。雌成虫は体色が乳白色、シストは褐色を帯びる。シストの直径は 0.5mm 程度である。

注) シストは、雌成虫の表皮が硬化したものである。

(2) 類似種 (ジャガイモシロシストセンチュウ) との識別

① シストの色彩は褐色で、大きさもほぼ同じであるため、外観での識別は困難である。

② 雌成虫は乳白色で、ジャガイモシロシストセンチュウのように黄色を帯びることはない。

③ ジャガイモシロシストセンチュウは、道内で栽培されているジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性品種には寄生できないが、本種は少なくとも一部の抵抗性品種への寄生が確認されている。

3. 発生生態、被害

ばれいしょ、トマト、なすが主な寄主植物である。基本的な寄生、加害方法はジャガイモシロシストセンチュウと同じで、根に寄生した幼虫は養水分の吸収を妨げることにより、株の黄化、萎縮を引き起こし、減収をもたらす。

4. 対 策

(1) 早期発生確認のため、ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性品種栽培ほ場において、植物検診によるシロシストセンチュウ発生有無の確認を行う。その結果、現在栽培されているジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性品種に雌成虫及びシストの着生が少なからず認められた場合には、本種の発生が疑われる。植物検診の適期は、雌成虫がシストとなって根から離脱し易くなるまでの間の、7 月中旬から下旬頃である。これ以降の時期には、見落としを防ぐため、観察する株数を増やし慎重に抜き取りを行うなどの工夫が必要である。抵抗性品種に雌成虫やシストの着生が認められた場合、速やかに病害虫防除所に連絡する。

(2) 正規の種いも使用、作業機洗浄など、発生拡大防止における諸対策は、ジャガイモシロシストセンチュウにおける対策に準じる。